

学級担任のまなざし 34

Okayama Prefectural Education Center

R2.7.27(Mon)

「子どもと遊ぶ」

同学年の先輩の先生は、昼休みになると子どもたちと運動場に出て、鬼ごっこやドッジボールにいつも夢中。様子を見てみると、どちらが子どもか先生か分からないくらい本気で遊んでいます。

「先生は、子どもたちと遊んでいるとき、失礼ですけど、まるで子どもみたいにすごく楽しそうですね。」と私が言うと、「そう見えますか。初任のあなたが来てくれたおかげで、私も初心を思い出してね。」と先輩。「そう言えば・・・」と話は続きます。

「私が先生になりたての頃、子どもが「遊ぼう。」と誘ってくれても、丸付けや授業準備でなかなか遊んであげる時間が取れないことがあったんです。それを当時の教頭先生に相談すると、教頭先生はしばらく考えた後に、「“遊んであげる”というより“子どもたちの遊びに入れてもらう”くらいの気持ちがいいかな。」と教えてくれたんですよ。

それを聞いて、当時の私は先生になれたうれしさでいつの間にか、自分が上から目線で子どもたちを見るようになっていたことに気づかされました。

それからは、授業中は先生として、休み時間は子どもと同じ目線で、思いっきり楽しんで遊ぶようになりました。すると、子どもたちとの絆も深まってますます仕事にやりがいを感じるようになってね・・・もう20年以上前の話ですけど。」

その話を聞いて、先輩にも子どもたちとの関係づくりに悩んだことがあったんだと思うとともに、自分も20年後、子どもたちと思いっきり遊べる先生でありたいなと思いました。